

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

男女が共にいきいきと暮らす社会づくりに向けて、区民の意識や女性の置かれている実態を総合的に把握するとともに、今後の施策や「男女共同参画プラン」調整計画策定の基礎資料とする。

## 2 調査の設計内容

- (1) 調査地域 世田谷区全域
- (2) 調査対象 平成21年10月1日現在区内に在住する20歳以上70歳未満の男女（個人）
- (3) 標本数 2,500
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出（区の電算による抽出）
- (5) 調査方法 郵送配布、訪問回収
- (6) 調査期間 平成21年11月21日～12月15日
- (7) 調査機関 株式会社 エスピー研

## 3 調査の項目

- (1) 家庭生活と家族観
- (2) 労働・職場
- (3) 仕事と子育て
- (4) 介護
- (5) ドメスティック・バイオレンス（DV）
- (6) 社会参加・参画
- (7) 「男女共同参画センター“らぷらす”」について
- (8) 男女平等観
- (9) 男女共同参画社会の実現にむけて
- (10) ワーク・ライフ・バランス

## 4 回収結果

- (1) 全体回収結果

	全 体	女 性	男 性
標本数	2,500	1,250	1,250
有効回収数	1,553	804	749
回収率	62.1%	64.3%	59.9%
未回収数	947	—	—

(2) 未回収の内訳

未回収	転居	長期不在	一時不在	住所不明	病気・入院・死亡	協力拒否	その他
	947	90	46	517	29	17	243

(3) 地域別回収結果

<地域区分図>



	母集団数	標本数	回収数	回収率
世田谷地域	168,518	708	393	55.5%
北沢地域	104,763	438	282	64.4%
玉川地域	144,900	605	366	60.5%
砧地域	102,773	427	281	65.8%
烏山地域	76,858	322	231	71.7%
合計	597,812	2,500	1,553	62.1%

## 5 報告書の見方

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。
- (5) クロス結果の帯グラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、件数が30未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中ではふれていないことがある。
- (7) 標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本の誤差  
 $N$  = 母集団数  
 $n$  = 比率算出の基数  
 $P$  = 回答の比率

今回の調査結果の場合、誤差および信頼の範囲は表5-1のとおりであり、「ある設問の回答者数が1,553人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は、最高でも±3.52% (56.48%~63.52%)である」というようにみる。

表5-1 標本誤差一覧表

回答比率(P) 回答者数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,553	± 2.15	± 2.87	± 3.29	± 3.52	± 3.59
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
500	± 3.79	± 5.06	± 5.80	± 6.20	± 6.32
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00
100	± 8.49	±11.31	±12.96	±13.86	±14.14

注)  $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

## 6 質問と回答

以下の数値は、nは実数、回答はnを基にしたパーセンテージで表示している。

【はじめに、あなた自身のことについておたずねします。】

F 1 あなたの性別は？

	全 体
全 体	1,553
1. 男性	48.2
2. 女性	51.8

F 2 あなたのお歳はおいくつですか。

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 20～24歳	6.5	5.8	7.2
2. 25～29歳	9.9	9.7	10.1
3. 30～34歳	11.3	10.7	12.0
4. 35～39歳	13.8	15.4	12.1
5. 40～44歳	13.7	14.4	13.0
6. 45～49歳	12.0	11.7	12.3
7. 50～54歳	10.5	10.4	10.5
8. 55～59歳	9.5	9.2	9.9
9. 60～64歳	6.6	6.6	6.5
10. 65～69歳	6.1	6.0	6.3

F 3 あなたは結婚していますか。

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. している（事実婚を含む）	59.5	60.9	57.9
2. していない（離別・死別など）	10.0	11.9	8.0
3. していない（未婚）	30.3	27.0	33.9
無回答	0.1	0.1	0.1

< F 3で「1. している（事実婚を含む）」とお答えの方に >

F 3-1 あなたの世帯は、共働きですか。

	全 体	女 性	男 性
全 体	924	490	434
1. 共働き	46.2	46.9	45.4
2. 夫だけ働いている	46.8	45.1	48.6
3. 妻だけ働いている	3.1	3.5	2.8
4. 夫婦とも無職	3.7	4.1	3.2
無回答	0.2	0.4	0.0

F 4 お子さんはいらっしゃいますか。

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. いる	52.4	56.5	47.9
2. いない	44.9	40.9	49.1
無回答	2.8	2.6	2.9

< F 4で「1. いる」とお答えの方に >

F 4-1 一番下のお子さんは、おいくつですか。

	全 体	女 性	男 性
全 体	813	454	359
1. 1歳未満	5.7	4.8	6.7
2. 1～2歳	8.4	5.3	12.3
3. 3歳～小学校入	9.8	11.7	7.5
4. 小学生	18.8	19.8	17.5
5. 中学生	7.4	6.8	8.1
6. 高校生	8.5	8.6	8.4
7. 短大・各種学校・大学・大学院生	9.7	9.7	9.7
8. 社会人	30.6	31.5	29.5
9. その他	0.7	1.1	0.3
無回答	0.4	0.7	0.0

F 5 あなたの世帯は、このように分類した場合、どれにあたりますか。ご自分の立場（自分が親、自分が子ども）にかかわらず、世帯構成をお答えください。

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. ひとり暮らし	18.4	16.4	20.4
2. 夫婦のみ（一世代家族）	17.8	17.5	18.0
3. 親と未婚の子ども（核家族）	47.2	48.5	45.8
4. 親と子ども夫婦（二世世代家族）	7.7	7.5	7.9
5. 親と子ども夫婦（三世世代家族）	6.0	6.7	5.2
6. その他	2.4	2.7	2.1
無回答	0.6	0.6	0.5

【家庭生活について】

問1 あなたは、(ア)～(ク)にあげることをどの程度おこなっていますか。

		全 体	い つ も し て い る	わ り と よ く や る	と き ど き す る	ほ と ん ど し な い	ま っ た く し な い	無 回 答
(ア) 食事のしたく	全 体	1,553	38.5	13.4	19.6	16.0	12.0	0.5
	女 性	804	63.4	13.8	13.8	6.5	2.2	0.2
	男 性	749	11.7	13.0	25.9	26.3	22.4	0.7
(イ) 食料品・日用品の買い物	全 体	1,553	39.6	20.2	24.8	10.2	4.8	0.4
	女 性	804	61.6	19.7	13.6	3.9	1.2	0.1
	男 性	749	16.0	20.8	36.8	17.1	8.5	0.7
(ウ) 洗濯	全 体	1,553	43.6	15.1	11.8	14.1	14.7	0.7
	女 性	804	68.8	16.0	7.7	3.9	3.1	0.5
	男 性	749	16.6	14.0	16.3	25.1	27.1	0.9
(エ) 部屋の掃除	全 体	1,553	32.1	18.7	29.0	13.0	6.6	0.5
	女 性	804	51.4	21.8	22.3	3.6	0.7	0.2
	男 性	749	11.3	15.5	36.3	23.1	13.0	0.8
(オ) 風呂やトイレの掃除	全 体	1,553	27.8	20.0	27.9	14.2	9.7	0.4
	女 性	804	45.0	23.5	22.0	5.2	4.0	0.2
	男 性	749	9.3	16.2	34.3	23.8	15.9	0.5
(カ) 庭や玄関回りの掃除	全 体	1,553	16.7	14.0	26.3	24.7	17.6	0.7
	女 性	804	26.1	16.5	30.1	16.7	9.8	0.7
	男 性	749	6.7	11.2	22.2	33.2	26.0	0.7
(キ) ゴミ出し	全 体	1,553	45.1	17.5	17.1	10.0	9.9	0.3
	女 性	804	59.3	15.3	12.3	7.2	5.7	0.1
	男 性	749	29.9	19.8	22.3	13.1	14.4	0.5
(ク) 町内会や自治会への出席	全 体	1,553	3.2	2.8	6.5	16.7	70.1	0.7
	女 性	804	3.7	2.1	7.5	18.0	68.2	0.5
	男 性	749	2.5	3.5	5.5	15.4	72.2	0.9

＜既婚（事実婚を含む）の方のみ回答＞

問2 あなたは、収入の得られる労働や、家庭内における家事・育児・介護などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。それぞれについて、平日・休日に分けて該当する時間数の番号を口の中に記入してください。

【収入の得られる行動】

	全 体	女 性	男 性
全 体	924	490	434
1. ほとんどしない	23.6	39.6	5.5
2. 15分くらい	0.6	1.2	0.0
3. 30分くらい	0.9	1.2	0.5
4. 1時間くらい	1.1	1.6	0.5
5. 2～3時間くらい	4.0	6.1	1.6
6. 4～5時間くらい	7.7	12.0	2.8
7. 6～7時間くらい	9.5	11.6	7.1
8. 8時間以上	49.0	20.6	81.1
無回答	3.6	5.9	0.9

【家庭内の家事・育児・介護など】

平日

	全 体	女 性	男 性
全 体	924	490	434
1. ほとんどしない	21.3	0.4	44.9
2. 15分くらい	6.2	0.8	12.2
3. 30分くらい	7.3	1.4	13.8
4. 1時間くらい	11.4	6.7	16.6
5. 2～3時間くらい	19.2	28.6	8.5
6. 4～5時間くらい	15.7	28.2	1.6
7. 6～7時間くらい	6.8	12.7	0.2
8. 8時間以上	10.3	19.4	0.0
無回答	1.9	1.8	2.1

休日

	全 体	女 性	男 性
全 体	924	490	434
1. ほとんどしない	9.1	0.8	18.4
2. 15分くらい	3.7	0.4	7.4
3. 30分くらい	6.2	0.2	12.9
4. 1時間くらい	13.9	4.3	24.7
5. 2～3時間くらい	24.4	26.9	21.4
6. 4～5時間くらい	18.2	28.6	6.5
7. 6～7時間くらい	8.0	12.9	2.5
8. 8時間以上	14.6	23.9	4.1
無回答	2.1	2.0	2.1



問3 最近では、家族のあり方が大きく変化しており、結婚や出産、男女の役割などに対する考え方も多様化してきています。次にあげる考えについて、あなたはどのように思いますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

		全 体	そ う 思 う	ば ど ち ら か と い え	ば ど ち ら か と い え	そ う 思 わ な い	無 回 答
(ア) 結婚する、しないは個人の自由である	全 体	1,553	71.5	21.7	3.9	2.1	0.9
	女 性	804	72.5	23.0	2.2	1.2	1.0
	男 性	749	70.4	20.3	5.6	2.9	0.8
(イ) 未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ	全 体	1,553	43.7	29.3	18.7	7.7	0.5
	女 性	804	42.0	31.5	18.9	7.0	0.6
	男 性	749	45.5	27.0	18.6	8.5	0.4
(ウ) 「結婚しても、子どもは持たない」というのもひとつの生き方だ	全 体	1,553	50.1	28.3	15.5	5.5	0.6
	女 性	804	50.5	31.0	14.6	3.7	0.2
	男 性	749	49.7	25.5	16.4	7.5	0.9
(エ) 話し合いを経た上で、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である	全 体	1,553	18.0	38.6	22.0	20.7	0.6
	女 性	804	19.9	42.4	21.0	16.0	0.6
	男 性	749	16.0	34.4	23.1	25.8	0.7
(オ) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい	全 体	1,553	25.8	39.0	20.4	14.6	0.3
	女 性	804	16.0	41.4	25.1	17.3	0.1
	男 性	749	36.2	36.3	15.4	11.7	0.4
(カ) 女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい	全 体	1,553	60.7	34.5	3.3	1.2	0.4
	女 性	804	64.3	33.0	2.0	0.4	0.4
	男 性	749	56.7	36.2	4.7	2.0	0.4
(キ) 男の子も、家事ができるように育てるのがよい	全 体	1,553	56.5	37.8	4.1	1.3	0.3
	女 性	804	63.9	33.7	2.0	0.1	0.2
	男 性	749	48.6	42.2	6.4	2.5	0.3
(ク) 男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つ方がよい	全 体	1,553	53.7	34.8	7.5	3.5	0.5
	女 性	804	54.9	35.6	7.5	1.6	0.5
	男 性	749	52.5	34.0	7.5	5.6	0.4
(ケ) 父親はもっと子育てに関わる方がよい	全 体	1,553	56.7	37.5	3.9	1.1	0.8
	女 性	804	61.4	34.0	3.1	0.6	0.9
	男 性	749	51.5	41.4	4.8	1.6	0.7
(コ) 子育てには地域社会の支援も必要である	全 体	1,553	61.2	34.3	2.8	1.3	0.3
	女 性	804	65.2	31.6	2.1	0.9	0.2
	男 性	749	57.0	37.2	3.6	1.7	0.4
(サ) 子どもや経済的な不安がなければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない	全 体	1,553	37.9	31.1	19.6	10.6	0.7
	女 性	804	44.0	32.2	16.5	6.2	1.0
	男 性	749	31.4	29.9	23.0	15.4	0.4
(シ) 子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない	全 体	1,553	20.3	34.3	30.7	13.7	1.0
	女 性	804	20.6	39.6	28.7	9.8	1.2
	男 性	749	19.9	28.7	32.7	17.9	0.8
(ス) 家族のために自分が犠牲になるのは耐えられない	全 体	1,553	8.4	25.4	42.6	23.2	0.5
	女 性	804	10.0	32.5	43.3	13.7	0.6
	男 性	749	6.8	17.8	41.8	33.4	0.3
(セ) 自分の仕事のために、女性が単身赴任するというのもひとつの生き方だ	全 体	1,553	25.9	34.0	28.1	11.4	0.6
	女 性	804	26.6	33.5	28.4	10.9	0.6
	男 性	749	25.1	34.6	27.9	11.9	0.5
(ソ) 家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい	全 体	1,553	2.7	16.9	38.7	41.2	0.5
	女 性	804	1.7	14.6	35.7	47.5	0.5
	男 性	749	3.7	19.4	41.9	34.4	0.5
(タ) 家庭や職場において、男性は女性以上に責任を負っている	全 体	1,553	19.1	45.7	20.2	14.5	0.6
	女 性	804	16.5	47.0	22.1	13.6	0.7
	男 性	749	21.8	44.2	18.0	15.5	0.5
(チ) 「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する	全 体	1,553	6.9	25.1	31.6	36.1	0.3
	女 性	804	4.9	22.8	32.1	40.0	0.2
	男 性	749	9.1	27.6	31.1	31.8	0.4

問4 ここ数年出生率の低下が進み、一人の女性が生涯に産む子どもの平均数（合計特殊出生率）は、1.37人（平成20年 厚生労働省人口動態統計）と低水準に留まっています。少子化の原因は何だと思えますか。（〇は3つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 将来の社会状況を考えると、明るい未来とはいえないから	30.7	24.4	37.4
2. 出産・子育てが女性の自立の障害になっているから	21.9	24.5	19.1
3. 子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考える人が増えたから	33.5	32.2	35.0
4. 結婚しても子どもは持たないという考えの人が増えたから	10.3	8.3	12.4
5. 女性の結婚年齢が高くなったから	31.8	37.6	25.6
6. 経済的負担が大きいから	53.6	50.4	57.1
7. 子育てのための肉体的負担が大きいから	3.3	2.5	4.1
8. 子どもをどのように育てるべきかなど、子育てのための精神的な負担が大きいから	6.6	7.6	5.5
9. 少ない人数で十分に手をかけて育てたいという人が増えたから	13.8	17.4	10.0
10. 子どもを育てるということに魅力を感じていない人が増えたから	11.5	9.6	13.5
11. 住宅事情がよくないから	6.9	4.9	9.1
12. 保育施設、育児休業の制度などが十分整っていないから	41.0	45.8	35.9
13. 育児に対する男性（夫）の理解や協力が足りないから	6.4	9.2	3.5
14. その他	5.3	5.2	5.3
15. わからない	1.3	1.4	1.2
無回答	0.2	0.0	0.4

問5 身近な地域における大人と子どもの交流の機会・場として、どのようなものが望ましいと思いますか。（〇は3つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 大人と子どもと一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会	52.9	48.8	57.4
2. 大人と子どもと一緒に自主的な活動ができる機会	31.0	30.3	31.6
3. 大人が子どもの宿題をみたり、勉強を教えたりする機会	10.1	9.0	11.3
4. 様々な活動を通じて子どものしつけをしてくれる場	30.7	29.2	32.2
5. 子どもが職場を見学したり、模擬体験できる機会	29.4	32.0	26.7
6. 大人と子どもが、日常的に気の向いた時にお互いが立ち寄れる場所	21.9	23.9	19.8
7. 大人と子どもが、思いきり体を動かすことができる場	29.9	29.0	31.0
8. 子どもや親の話し相手になったり、気軽な相談のできる場	30.6	34.2	26.7
9. その他	2.3	2.4	2.1
10. 特にない	2.7	2.2	3.2
11. わからない	3.7	4.4	2.9
無回答	0.6	0.2	0.9

【 労働・職場 】

問6 あなたの職業は次のどれですか。（〇は1つだけ）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 自営業・経営者	6.8	3.1	10.8
2. 自営業・家族従業者	2.4	3.1	1.6
3. 自由業・個人事業	5.2	3.1	7.3
4. 家庭内労働・内職	0.2	0.2	0.1
5. 常勤の勤め人・部課長以上	11.9	2.2	22.3
6. 常勤の勤め人・一般	32.1	27.0	37.5
7. パート・アルバイト・臨時の勤め人	13.4	19.2	7.2
8. 派遣社員（登録派遣）	2.8	4.6	0.9
9. 家事専業	13.5	25.7	0.3
10. 無職	6.6	6.3	6.9
11. 学生	3.7	3.6	3.9
無回答	1.4	1.7	1.1

<問6で「1」～「8」とお答えの方に>

問6-1 あなたが、働いている理由はどのようなことでしょうか。(〇は3つまで)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,161	503	658
1. 生計を維持するため	72.4	54.1	86.5
2. 生活費補助のため	16.0	25.8	8.5
3. 将来に備えて貯蓄するため	23.9	24.3	23.6
4. 自分で自由になる収入がほしいため	18.4	25.6	12.9
5. 自分の能力、技能、資格を生かすため	26.8	30.2	24.2
6. 働くことが好きだから	12.3	13.7	11.2
7. 視野を広めたり、友人を得るため	11.6	15.9	8.4
8. 社会的な信用を得るため	9.9	6.6	12.5
9. 働くのがあたりまえだと思うから	35.8	27.6	42.1
10. 家業だから	3.6	6.2	1.7
11. 時間的に余裕があるから	3.2	6.2	0.9
12. その他	2.8	2.2	3.3
無回答	0.2	0.2	0.2

<問6で「1」～「8」とお答えの方に>

問6-2 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,161	503	658
1. 賃金に男女差がある	11.4	13.3	9.9
2. 昇進、昇格に男女差がある	14.2	15.7	13.1
3. 能力を正當に評価しない	9.9	13.3	7.3
4. 配置場所が限られている	12.4	11.3	13.2
5. 補助的な仕事しかやらせてもらえない	4.5	4.4	4.6
6. 女性を幹部職員に登用しない	5.4	5.6	5.3
7. 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある	6.8	7.8	6.1
8. 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	2.9	5.0	1.4
9. 教育・研修を受ける機会が少ない	8.1	12.5	4.7
10. その他	4.3	3.2	5.2
11. 特になし	57.9	55.9	59.4
無回答	3.3	1.6	4.6

<現在働いていない方のみ回答>

問7 あなたは、今までに仕事についていたことがありますか。(〇は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	370	287	83
1. 仕事についていたことがある	79.2	82.9	66.3
2. ついたことはない	18.4	15.0	30.1
無回答	2.4	2.1	3.6

<現在働いていない方のみ回答>

問8 あなたが、現在働いていない理由は、次のどれにあたりますか。(〇は3つまで)

	全 体	女 性	男 性
全 体	370	287	83
1. 働かなくても経済的に困らない	28.4	32.4	14.5
2. 家事・育児に専念したい	19.2	24.7	0.0
3. 家事・育児と両立できない	16.2	20.9	0.0
4. 高齢者や病人の介護・看護と両立できない	6.5	7.0	4.8
5. 健康に自信が持てない	9.7	9.8	9.6
6. 職業能力に自信が持てない	4.6	4.5	4.8
7. 希望や条件にあう仕事が見つからない	14.3	15.0	12.0
8. 趣味や社会活動など他にやりたいことがある	11.1	12.2	7.2
9. 家族の反対がある	3.2	3.8	1.2
10. 家族の転勤や転居がある	3.5	4.2	1.2
11. 求職に年齢制限がある	10.0	9.4	12.0
12. 高齢だから	10.3	8.0	18.1
13. 求職活動中だから	7.8	4.9	18.1
14. 扶養家族のほうが有利だから	0.5	0.3	1.2
15. その他	18.6	15.7	28.9
16. 特に理由はない	6.2	5.2	9.6
無回答	3.2	2.1	7.2

<現在働いていない方のみ回答>

問9 あなたは、今後仕事や社会活動をしたいと思いますか。（〇は1つだけ）

	全体	女性	男性
全体	370	287	83
1. 常勤で働きたい	21.1	16.0	38.6
2. パートで働きたい	20.8	24.7	7.2
3. 自分で事業をはじめたい（起業）	7.6	6.6	10.8
4. 自宅や身近な場所などでインターネットを通じて仕事をする “SOHO”や“テレワーク”で働きたい	4.1	4.5	2.4
5. 非営利活動団体（NPO、NGO等）で活動したい	5.9	5.2	8.4
6. 家の仕事（家業）を手伝いたい	1.4	1.0	2.4
7. したいができないと思う	16.2	16.7	14.5
8. 働きたいと思わない	18.9	21.3	10.8
無回答	4.1	3.8	4.8

問10 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。

（〇は1つだけ）

	全体	女性	男性
全体	1,553	804	749
1. 仕事はもたない	1.2	1.1	1.3
2. 結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない	3.8	3.4	4.3
3. 子どもができるまでは仕事もち、その後はもたない	11.5	10.0	13.2
4. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をもつ	51.3	54.0	48.3
5. 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ	21.6	23.4	19.6
6. その他	9.4	7.2	11.7
無回答	1.2	1.0	1.5

問 11 女性が長く働きつづけることを困難にしたり、障害になっている理由はどんなことだと思えますか。（〇はあてはまるものすべて）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 育児	61.0	58.0	64.4
2. 子どもを預けるところ（保育園）がない	64.5	67.8	60.9
3. 高齢者や病人の介護・看護	38.3	44.7	31.5
4. 子どもの教育	18.4	17.3	19.5
5. 家 事	27.4	27.5	27.4
6. 夫の転勤	18.2	20.8	15.5
7. 家族の無理解	20.8	21.8	19.8
8. 職場での結婚・出産退職の慣行	22.3	21.5	23.1
9. 育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分	56.5	62.8	49.8
10. 昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い	13.5	15.0	11.7
11. 女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方	19.6	21.9	17.1
12. その他	2.8	2.5	3.2
13. 障害、困難になるものはない	1.2	1.0	1.3
14. わからない	3.3	3.1	3.5
無回答	0.1	0.0	0.3

【 仕事と子育て 】

問 12 仮に、あなたやあなたの配偶者がこれから出産する場合、あなたは育児休業制度を利用しますか。（〇は1つだけ）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 利用する	52.7	62.3	42.5
2. 利用しない	20.7	13.3	28.7
3. わからない	25.8	23.4	28.4
無回答	0.7	1.0	0.4

<問12で「2. 利用しない」とお答えの方に>

問12-1 育児休業制度を利用しない理由は次のどれですか。（〇は2つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	322	107	215
1. 職場に迷惑がかかる	38.5	29.9	42.8
2. 職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない	30.4	27.1	32.1
3. 復帰後、職場に対応できるか不安がある	12.4	20.6	8.4
4. 元の仕事（職場）に復帰できるとは限らない	12.7	18.7	9.8
5. 昇進・昇格への影響が心配	4.3	1.9	5.6
6. 収入が減少する	19.3	11.2	23.3
7. 必要性を感じない	15.2	12.1	16.7
8. その他	13.4	16.8	11.6
9. 特に理由はない	3.1	1.9	3.7
無回答	1.6	2.8	0.9

問13 育児休業制度をさらに利用しやすくしていくためには、どんなことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 事業主や上司の理解	38.1	33.6	43.0
2. 職場内の理解を深めていくこと	29.8	28.2	31.5
3. 休業中の経済的支援	28.3	23.1	33.8
4. 休業期間の延長	2.8	2.5	3.2
5. 短時間勤務制度等休業後、職場復帰しやすい体制の整備	31.4	38.8	23.4
6. 休業中の情報提供、職場復帰研修の実施	5.5	5.6	5.3
7. 代替職員の確保のための援助制度の充実	4.7	5.0	4.4
8. 休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備	28.7	38.1	18.7
9. 育児休業制度についての行政機関等の普及啓発	8.4	6.8	10.0
10. その他	1.2	0.9	1.5
11. 特にない	1.4	0.9	2.0
12. わからない	3.5	2.6	4.5
無回答	0.4	0.5	0.3



問 14 子育てと仕事の両立支援を図るために、職場においてどのような制度や支援策の充実が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 妊娠中や育児期間中の勤務軽減（フレックスタイム制度や短時間勤務制度など）	55.4	58.7	51.9
2. 育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり	35.7	33.7	37.9
3. 子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度	48.0	56.1	39.4
4. 勤務先に保育施設を設置する	25.5	26.1	24.8
5. 男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり	27.9	25.7	30.2
6. 子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めていくこと	28.5	26.5	30.6
7. 女性の就労継続に対する企業の理解や支援	24.2	27.6	20.6
8. その他	1.8	1.5	2.1
9. 特にない	1.9	1.0	2.8
10. わからない	3.9	3.6	4.1
無回答	0.3	0.1	0.4

問 15 子育てと仕事の両立支援を図るために、区ではどのような施策が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 保育園の多様な運営（長時間保育、病後児保育等）	83.8	86.6	80.9
2. 地域の中で子育てをする仕組み	41.8	40.9	42.7
3. 企業等に対する啓発	37.2	38.3	36.0
4. 相談場所の開設	21.0	21.4	20.6
5. 情報交換できる場所の提供	23.8	24.6	23.0
6. その他	3.9	3.9	3.9
7. わからない	5.5	4.7	6.4
無回答	0.5	0.5	0.4

【介護について】

問 16 あなたご自身が高齢になり介護が必要になったときは、だれに介護をしてほしいですか。（〇は1つだけ）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 配偶者	30.8	19.8	42.6
2. 娘	7.9	12.7	2.7
3. 息子	0.7	0.7	0.7
4. 息子の妻	0.6	0.6	0.5
5. その他の家族	0.8	1.1	0.4
6. 友人・隣人	0.3	0.2	0.4
7. 公的・民間サービスを利用する	37.9	45.5	29.8
8. その他	1.1	0.9	1.3
9. わからない	19.4	18.0	20.8
無回答	0.6	0.4	0.8

問 17 これからは公的・民間サービスの整備とともに、男性も共に介護を担うことが求められます。男性の介護への参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思われますか。（〇は2つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する	65.4	65.3	65.6
2. 男性が気軽に参加できるような介護講座を開催する	24.5	24.8	24.2
3. 男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う	21.8	25.5	17.8
4. 労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける	49.6	49.8	49.5
5. 女性が男性に介護への参加を強く要望する	2.4	2.2	2.5
6. 介護は今まで通り、女性が中心となって行うべきで、男性の参加は必要ない	0.6	0.2	1.1
7. その他	2.4	2.4	2.5
8. わからない	6.3	5.7	6.9
無回答	0.6	0.4	0.8

問 18 介護の担い手はどうあるべきだと思いますか。(〇は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 介護は体力が必要なので男性が積極的に取り組むべきである	13.5	14.9	12.0
2. 男性も女性と同じように取り組むべきである	40.6	41.2	40.1
3. 女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護にかかわるほうがよい	35.2	36.8	33.4
4. 労働時間の現状などからみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない	2.8	1.4	4.3
5. 介護は女性の役割だと思う	0.2	0.0	0.4
6. その他	2.1	1.4	2.8
7. わからない	5.1	4.0	6.3
無回答	0.6	0.4	0.8

【女性の人権】

問 19 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(＝DV防止法)をご存知ですか。(〇は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 法律名も内容も知っている	35.5	32.6	38.6
2. 聞いたことはあるが、内容は知らない	53.0	56.7	49.0
3. 知らない	10.8	10.3	11.2
無回答	0.8	0.4	1.2

問 20 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス＝夫婦(事実婚・離婚後も含む)や恋人という親しい関係で生じる暴力、人権侵害」についてどのようにお考えですか。(〇は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 100%加害者に責任があり、許せないものである	49.1	53.1	44.9
2. 加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う	36.3	32.2	40.7
3. 双方の関係の問題であり、周りごとやかに言うべきではない	3.2	1.5	4.9
4. その他	2.5	2.6	2.4
5. わからない	8.0	9.7	6.3
無回答	0.8	0.9	0.8

問 21 あなたがこの中で、ドメスティック・バイオレンスだと思うものはどれですか。  
 (○はあてはまるものすべて)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 命の危険を感じるような暴力行為	95.0	96.4	93.5
2. 髪を引っ張る、物を投げつける等、身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為	93.8	95.0	92.4
3. 大声でどなる、無視する	58.4	62.3	54.2
4. 人前でバカにする、「誰のお陰で暮らせるんだ」と言う	65.5	66.2	64.8
5. 大切にしているものを壊す	60.1	59.7	60.5
6. 見たくないのにポルノビデオや雑誌を見せる	57.4	60.1	54.5
7. 性行為を強要する	74.2	79.2	68.8
8. 避妊に協力しない	59.7	63.3	55.8
9. わずかな生活費しか渡さない、仕事に就くことを禁止する	61.9	65.8	57.8
10. 友人や実家との付き合いを禁止する	60.6	65.2	55.7
11. 外出先をチェックする、封書やメールを無断で見る	52.2	56.0	48.1
12. その他	1.7	1.2	2.1
13. 特にない	0.8	0.6	1.1
無回答	0.8	0.4	1.2

問 22 「ドメスティック・バイオレンス」に対する対策や支援として、特にどのようなものを充実すべきだと思いますか。(○は3つまで)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発	51.3	49.6	53.0
2. いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備	56.3	61.3	51.0
3. 緊急時の相談体制の充実	28.2	25.0	31.6
4. 住居や就労あっ旋、経済的援助など、生活支援の充実	21.1	24.6	17.4
5. カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助の充実	23.4	23.6	23.1
6. 関係機関やスタッフの充実	5.7	5.2	6.3
7. 関連機関の紹介や暴力への対応方法など、いろいろな情報の提供	9.9	10.8	8.8
8. 離婚調停への支援など、法的なサポートの充実	17.3	19.0	15.5
9. 加害者に対する厳正な対処	34.0	32.1	36.0
10. カウンセリングなど、加害者の更生に関する対策の充実	9.9	11.1	8.7
11. 裁判所、病院、住居探し等への同行支援	9.1	11.8	6.3
12. その他	1.0	0.7	1.3
13. わからない	3.6	2.9	4.4
無回答	0.5	0.2	0.7

【社会参加】

問 23 あなたは、日常的に交流の持てるグループやサークル、団体などの、自主的な活動に参加していますか。（〇は1つだけ）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 参加している	34.9	39.9	29.5
2. 参加していない	64.6	59.5	70.2
無回答	0.5	0.6	0.3

<問23で「1. 参加している」とお答えの方に>

問 23-1 参加されているのは、どのような活動内容ですか。（〇はあてはまるものすべて）

	全 体	女 性	男 性
全 体	542	321	221
1. スポーツ活動	45.6	35.5	60.2
2. 趣味的活動	43.5	48.6	36.2
3. 学習活動	9.6	10.6	8.1
4. ボランティア・福祉活動・NPO活動	13.5	14.3	12.2
5. 自治会・町内会活動	7.6	5.0	11.3
6. PTA・子ども会活動	16.1	23.4	5.4
7. 消費者活動	0.7	0.9	0.5
8. その他	4.2	4.7	3.6
無回答	0.2	0.0	0.5

<問23で「2. 参加していない」とお答えの方に>

問 23-2 参加されていないのは、どのような理由からですか。（〇は3つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,004	478	526
1. 時間に余裕がないから	56.3	51.3	60.8
2. 情報がないから	21.3	21.1	21.5
3. 子どもが小さいから	7.4	10.5	4.6
4. 個人で活動する方が好きだから	14.0	13.0	15.0
5. 仲間がないから	7.9	6.1	9.5
6. 高齢者や病人の介護・看護があるから	3.2	5.2	1.3
7. 経済的に余裕がないから	14.4	14.6	14.3
8. 近くに活動する場所がないから	9.0	10.3	7.8
9. 家族が反対するから	0.0	0.0	0.0
10. 自分自身どんな活動がしたいかわからないから	16.5	16.9	16.2
11. 関心がないから	23.2	21.5	24.7
12. その他	5.5	6.7	4.4
無回答	0.8	0.8	0.8

問 24 あなたは、『男女共同参画センター“らぷらす”』をご存知ですか。

(○は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 利用したことがある	1.5	2.1	0.8
2. 知っているが、利用したことはない	12.6	17.0	7.7
3. 知らない	85.8	80.7	91.2
無回答	0.2	0.1	0.3

問 25 区では男女共同参画を推進するために、『男女共同参画センター“らぷらす”』などを通じて以下のような事業展開をしています。この中で、特に重点的に行うべきだと思われる事業はどれでしょうか。(○は3つまで)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 男性の家事への参画、新しい生き方などを啓発する事業 (例 男性向け家事・育児・介護セミナー等)	37.1	36.9	37.2
2. 女性の就業支援を目的とした事業(例 女性向け就職セミナー、 起業セミナー、キャリアカウンセリング相談等)	34.2	42.7	25.1
3. 最新の社会問題を扱う事業(例 ストーカー、DV防止啓発物 発行等)	30.2	27.9	32.7
4. 情報紙“らぷらす”・FM世田谷などの媒体を利用した、情報提 供・意識啓発	14.9	14.7	15.2
5. 行政と区民・区民団体とが協働で実施する事業	16.9	15.8	18.0
6. 地域での社会活動をはじめるきっかけづくりを目的とした事業	24.7	23.1	26.3
7. 家庭、仕事、人間関係などで生じた問題を中心とした、相談事 業の実施	26.0	26.6	25.4
8. 男女共同参画に関する図書・資料の提供や、区民・区民団体の 活動場所の提供	9.1	8.8	9.5
9. 女性の地位向上等を啓発する事業(例 男女共同参画週間イベ ント等)	5.2	6.5	3.7
10. その他	5.9	4.6	7.3
無回答	4.0	4.1	3.9

【男女平等】

問 26 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)～(オ)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。  
(○はそれぞれ1つずつ)

		全 体	平 等 に な っ て い る	い ほ る ほ る 平 等 に な っ て	い 平 等 に な っ て い な	わ か ら な い	無 回 答
(ア) 家庭生活では	全 体	1,553	17.8	42.7	30.7	8.5	0.3
	女 性	804	13.3	42.0	37.6	7.0	0.1
	男 性	749	22.6	43.4	23.4	10.1	0.5
(イ) 職場では	全 体	1,553	10.3	35.8	39.7	13.7	0.5
	女 性	804	6.6	29.6	45.4	18.2	0.2
	男 性	749	14.3	42.5	33.6	8.9	0.7
(ウ) 教育の場では	全 体	1,553	24.6	47.1	12.4	15.5	0.4
	女 性	804	19.4	49.6	13.8	16.9	0.2
	男 性	749	30.2	44.5	10.9	13.9	0.5
(エ) 社会参加の場では	全 体	1,553	9.0	38.7	31.7	20.2	0.3
	女 性	804	6.1	36.9	34.1	22.6	0.2
	男 性	749	12.1	40.6	29.2	17.6	0.4
(オ) 全体として、現在の日本では	全 体	1,553	3.2	31.7	53.6	11.2	0.3
	女 性	804	1.1	26.5	60.4	11.8	0.1
	男 性	749	5.3	37.4	46.3	10.5	0.4

問 27 あなたは、女性の意見が行政にどの程度反映されていると思いますか。  
(○は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 十分反映されている	4.0	0.7	7.5
2. ある程度反映されている	44.3	39.3	49.7
3. あまり反映されていない	26.1	31.3	20.6
4. ほとんど反映されていない	4.2	6.2	2.0
5. わからない	20.5	21.9	19.0
無回答	0.9	0.5	1.3

<問27で「3」か「4」とお答えの方に>

問 27-1 反映されていない理由は何だと思いますか。(〇は3つまで)

	全 体	女 性	男 性
全 体	471	302	169
1. 女性議員が少ない	36.1	38.1	32.5
2. 行政機関の管理・監督者に女性が少ない	40.8	43.0	36.7
3. 政策決定にかかわる審議会などへの女性の参加が少ない	31.8	32.8	30.2
4. 女性自身が消極的	20.6	23.5	15.4
5. 男性の意識、理解が足りない	42.9	40.1	47.9
6. 社会のしくみが女性に不利	49.5	49.3	49.7
7. 女性の能力に対する偏見がある	20.8	22.5	17.8
8. その他	4.7	3.0	7.7
無回答	0.2	0.3	0.0

問 28 今後さらに、女性と男性が家庭や地域社会へ参画していくことで、どのような変化がもたらされると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 仕事を優先する人が減り、日本経済の活力が衰える	7.8	6.7	8.9
2. 企業が男性の家事などへの参画の重要性を認識することにより、労働時間短縮や休暇制度の整備が進む	38.6	39.2	37.9
3. 仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方ができる男性が増える	51.6	54.7	48.2
4. 女性の家事負担が減り、女性の就労や社会参加が容易になる	36.6	39.6	33.5
5. 男性の家庭や社会に対する理解が深まり、視野が広がる	40.8	44.8	36.4
6. 子育てや介護が十分に行われなくなる	7.5	5.0	10.3
7. 家庭における夫婦や親子の絆が深まる	33.1	34.5	31.6
8. 企業内での昇進の遅れなどにより、収入が減る	10.0	9.6	10.4
9. 人々の地域社会に対する親しみや連帯感が深まる	25.0	24.8	25.2
10. 男らしさや女らしさが否定される	7.3	5.2	9.6
11. 伝統的な家庭観が希薄になる	16.7	14.9	18.7
12. 女性の負担が増える	3.5	3.9	3.2
13. その他	2.4	2.4	2.5
14. わからない	11.1	10.0	12.4
無回答	0.7	0.5	0.9



問 29 女性の地位を向上させて男女共同参画社会の実現をはかるために、今後、行政はどのようなことに力をいれるとよいと思いますか。（〇は3つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 学校で平等意識を育てる教育の充実	24.3	24.1	24.6
2. 男女平等への理解を深めるための学習機会の促進	10.9	9.0	13.1
3. 女性問題に関する情報提供、交流会・相談・研究などの充実	8.0	6.6	9.5
4. 女性の職業教育・訓練の機会の充実	13.0	14.2	11.7
5. 就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	25.2	26.5	23.9
6. 育児・保育施設の充実	58.4	64.2	52.2
7. あらゆる分野における女性の積極的な登用	24.5	24.9	24.0
8. 行政の政策決定などへの女性の参画促進	10.1	10.4	9.7
9. 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	33.5	37.8	28.8
10. 検診体制や相談などの健康管理システムの充実	6.1	7.3	4.7
11. 女性問題に関する国際的な交流・情報収集の促進	4.3	4.0	4.7
12. 男女平等に関する施策の国・都への働きかけ	9.3	9.2	9.5
13. その他	3.8	3.1	4.5
14. 特になし	7.4	5.3	9.6
無回答	0.6	0.5	0.8

【仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について】

問30 あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。あなたの希望に近いものはどれですか。現在仕事をしていない方もお答えください。（〇は1つだけ）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 「仕事」を優先したい	7.4	2.9	12.3
2. 「家庭生活」を優先したい	18.8	26.2	10.8
3. 「地域・個人の生活」を優先したい	3.6	2.6	4.7
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	35.0	29.1	41.3
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	4.2	4.0	4.5
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	9.6	12.9	6.0
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」をともに優先したい	17.0	18.8	15.1
8. わからない	3.5	2.7	4.3
無回答	0.9	0.7	1.1

問31 問30の考え方に対して、あなたの現実（現状）に近いものはどれですか。  
（○は1つだけ）

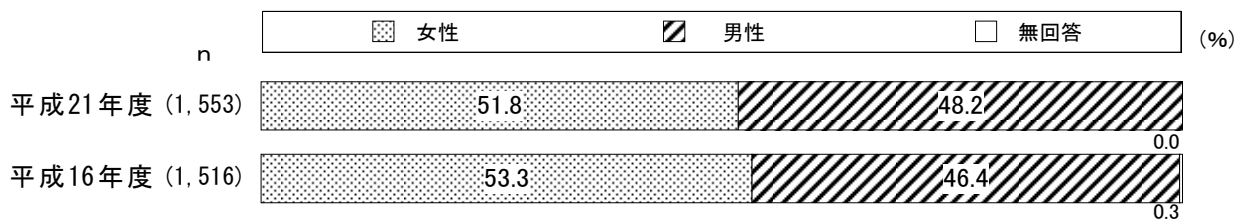
	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 「仕事」を優先している	34.6	22.3	47.8
2. 「家庭生活」を優先している	23.7	36.9	9.5
3. 「地域・個人の生活」を優先している	3.2	2.9	3.6
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	19.7	16.9	22.7
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.1	4.1	4.0
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.8	7.0	2.4
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」をともに優先している	4.0	4.7	3.2
8. わからない	5.0	4.4	5.7
無回答	1.0	0.9	1.1

問32 今後、仕事と生活の調和を図る上で、何が重要だとお考えですか。  
（○は最も重要だと思う3つまで）

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,553	804	749
1. 保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実	56.7	64.4	48.5
2. 育児・介護休業取得に対する職場の上司・同僚の理解浸透	26.7	29.1	24.0
3. 職場の両立支援制度の充実	32.1	31.1	33.2
4. 両立支援制度の利用の促進	14.8	14.4	15.2
5. 法律や制度の充実	25.9	23.6	28.4
6. 長時間勤務の見直し	27.0	24.3	30.0
7. 地域で、日常的に交流の持てるグループやサークル、団体などの自主的な活動に参加できる場の充実	7.2	6.6	7.9
8. 家族のサポートや家族の意識改革	16.5	20.6	12.1
9. 個人の意識改革や努力	20.0	15.9	24.4
10. その他	2.2	2.0	2.4
無回答	1.5	1.5	1.6

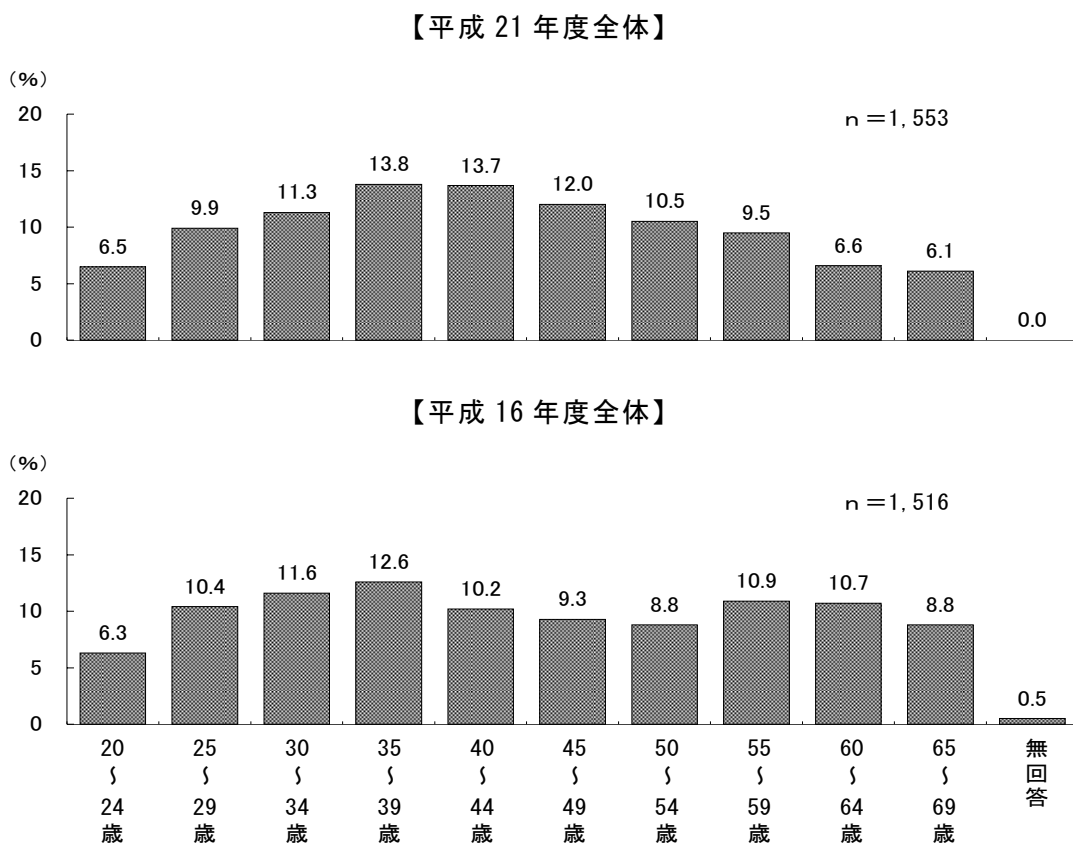
## 7 回答者の属性

### (1) 性別 . . . . . 男女ともほぼ同じ



回答者の男女比は、女性 51.8%、男性 48.2%とほぼ同じ割合となっている。  
また、平成 16 年度とはほぼ同じ傾向となっている。

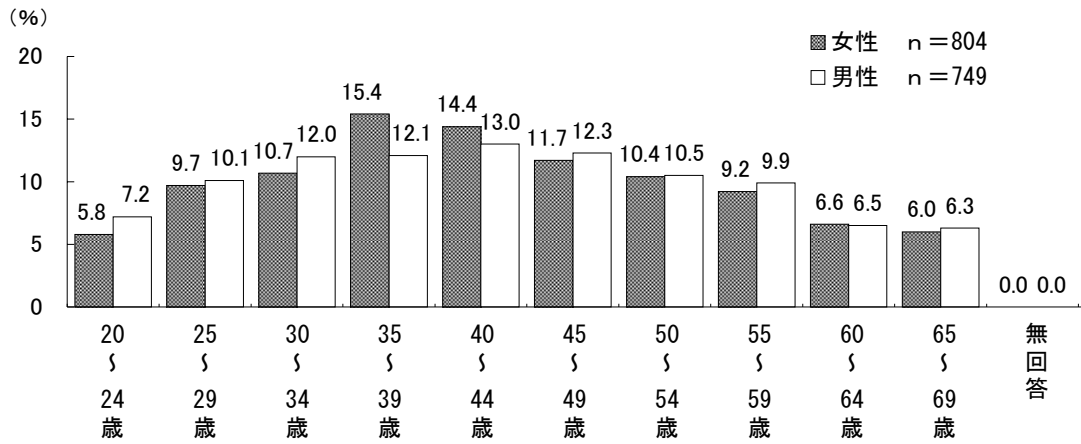
### (2) 年齢 . . . . . 30代、40代がやや多い



年齢構成は、30代が 25.1%、40代が 25.7%と他の年齢よりやや多くなっている。一方、60代が 12.7%とやや少なくなっている。

また、平成 16 年度より 40 代で高く、60 代で低くなっている。

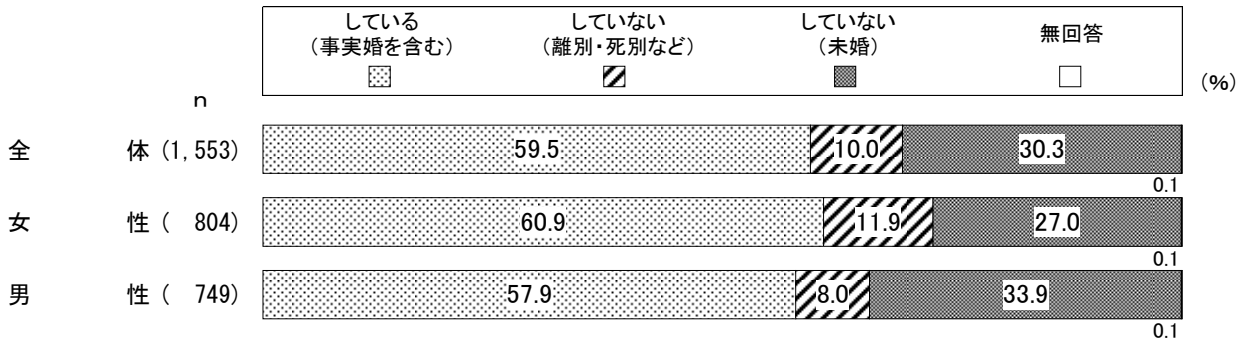
【年齢（性別）】



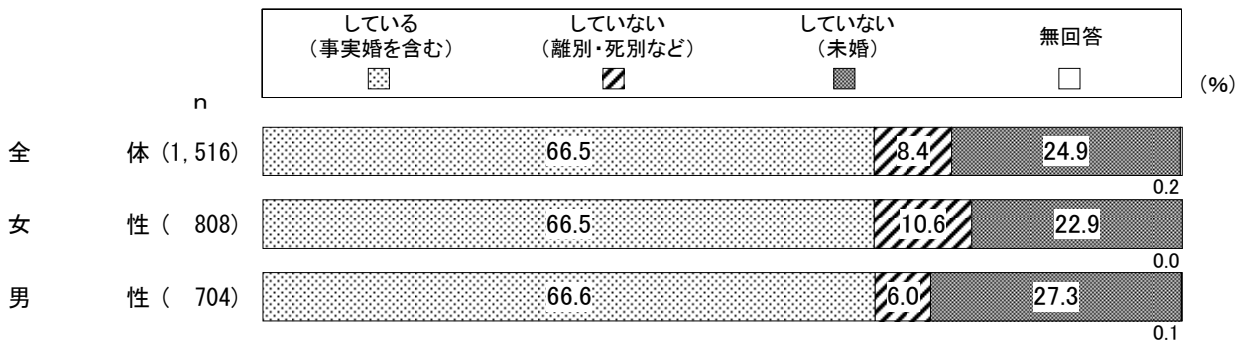
性別においては、ほぼ同じ傾向となっている。

(3) 結婚状況 . . . . . 既婚率は69.5%

【平成 21 年度全体】



【平成 16 年度全体】



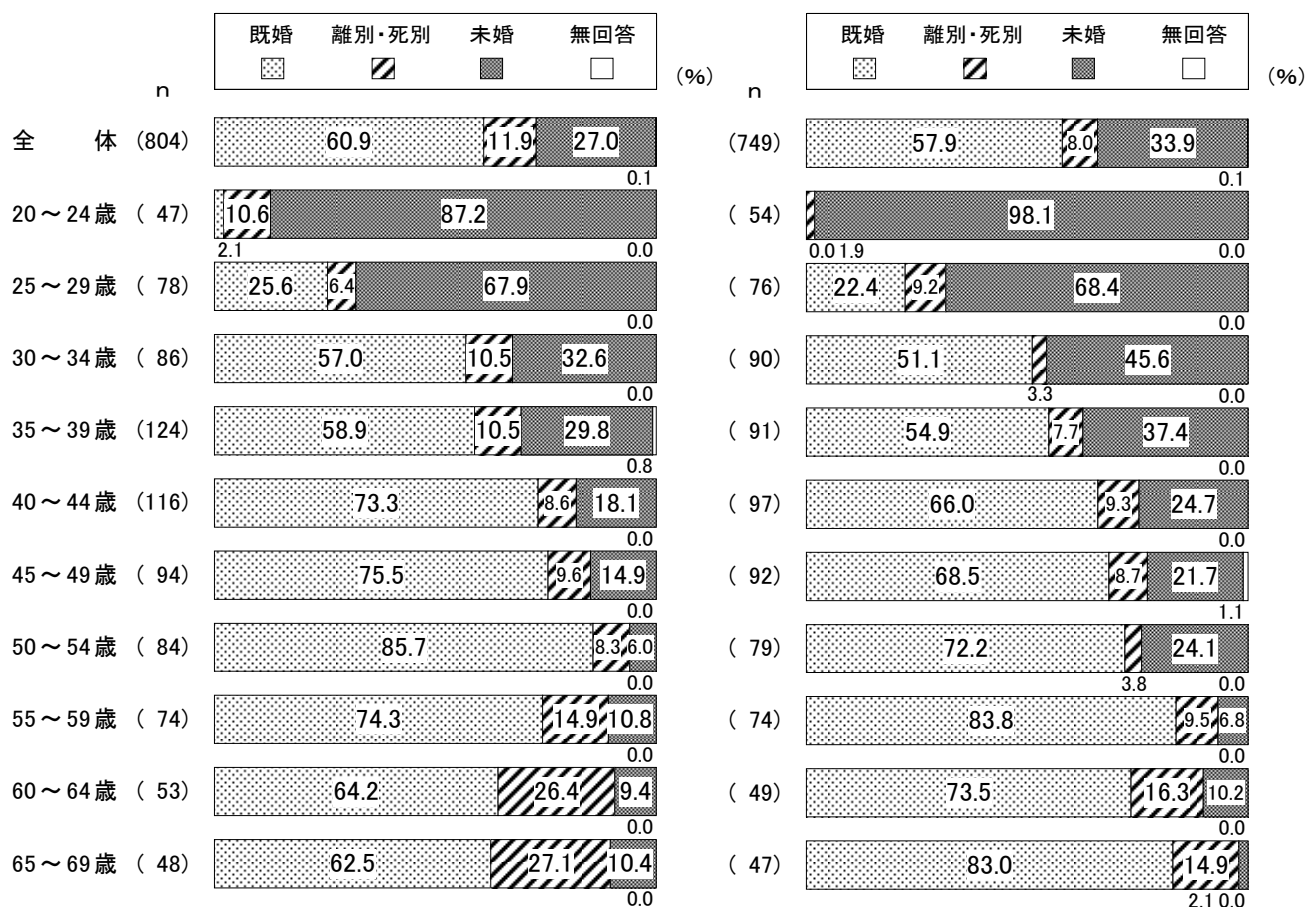
回答者の既婚率（離別・死別を含む）は全体で69.5%となっている。性別で見ると、既婚率は女性72.8%、男性65.9%と女性の既婚率が上回っている。

また、平成16年度より既婚率で74.9%から69.5%と減少しており、特に男性では72.6%から65.9%と減少している。

【結婚状況（性・年代別）】

【女性】

【男性】



年代が高くなるほど、既婚率は高くなっている。しかし、女性では60代後半になると既婚（離別・死別）の割合が3割近くに達している。

【参考 未婚率の推移】

(%)

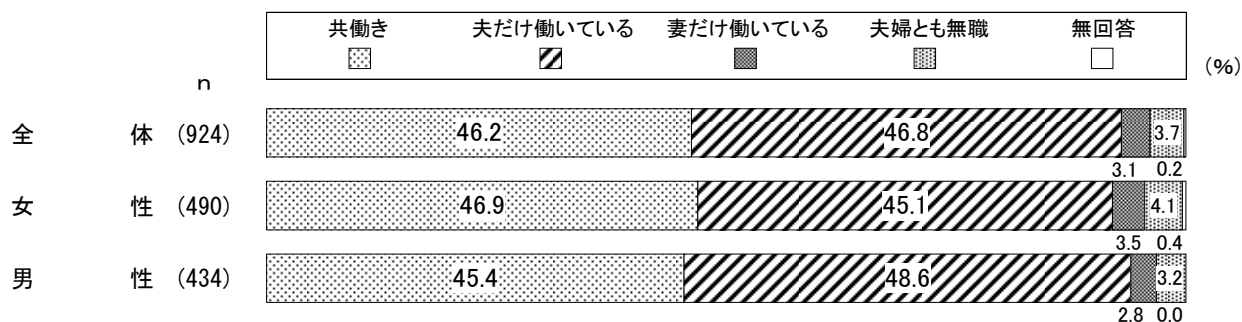
		全体	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳
女 性	平成21年度	27.0	87	68	33	30	18	15	6	11	9	10
	平成16年度	22.9	79	55	42	23	12	9	7	9	6	2
	平成12年度	25.3	88	60	29	14	19	7	11	6	6	12
	平成7年度	23.6	90	70	30	11	14	11	7	9	8	5
	平成2年度	26.1	92	68	22	14	5	8	6	6	7	4
男 性	平成21年度	33.9	98	68	46	37	25	22	24	7	10	2
	平成16年度	27.3	86	70	46	23	21	10	15	10	6	0
	平成12年度	31.2	83	72	45	24	25	14	8	13	6	2
	平成7年度	32.4	97	80	41	25	19	10	3	18	3	2
	平成2年度	32.3	99	70	41	17	11	6	3	3	4	2

※平成7年度は65歳以上にて調査

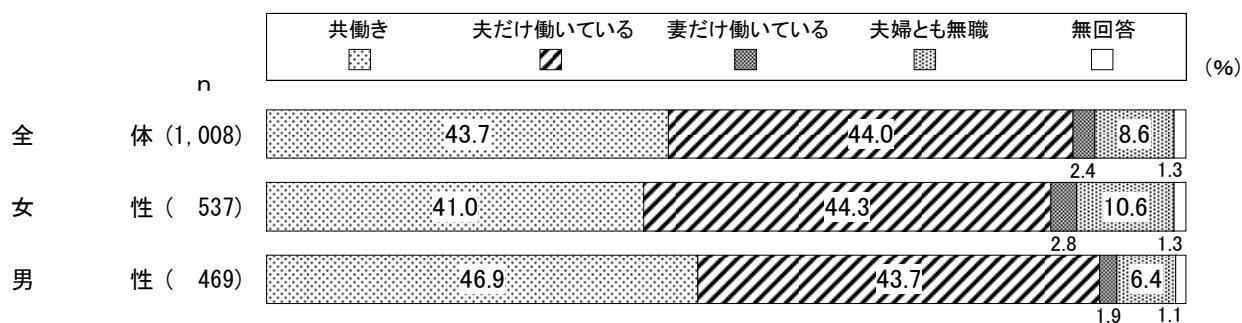
平成2年以降の未婚率の推移をみたものが上の表である。5歳階級別では誤差率が大いので注意を要するが、男女ともに20代・30代の未婚率の推移からは、晩婚化がすでに「進行」ではなくむしろ「定着」といえる状態になっている。また、30代後半から40代において未婚率は上昇傾向を示しており、晩婚化が若年層にとどまらず広がりを見せていることがうかがえる。

(4) 既婚者の配偶者就労状況 . . . . . 4割以上が共働き

【平成 21 年度全体】



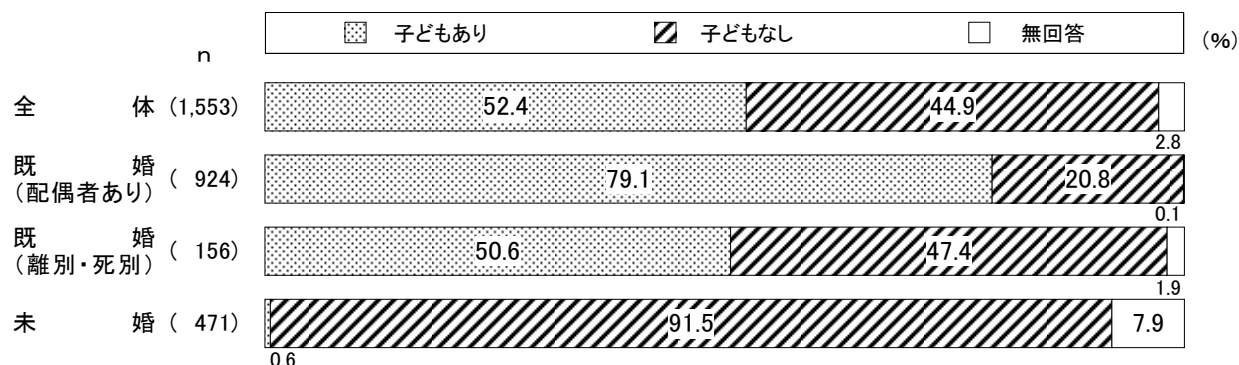
【平成 16 年度全体】



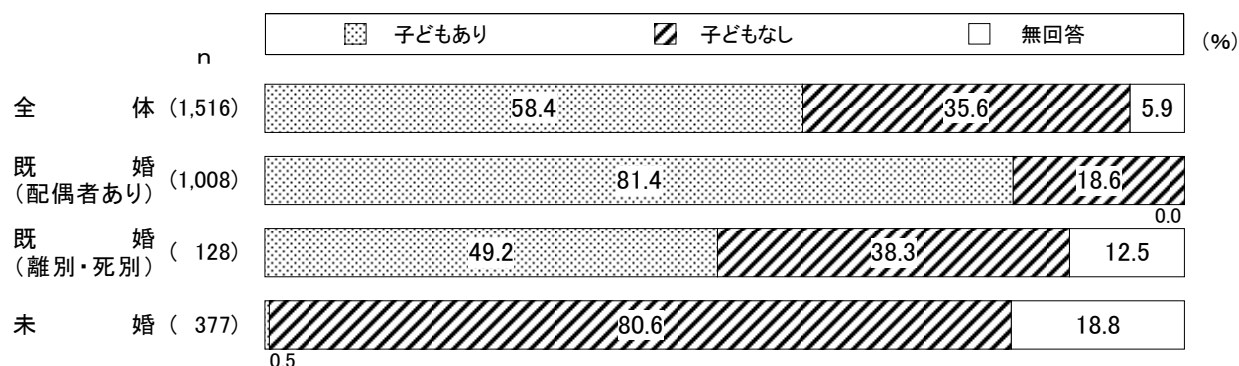
配偶者の就労状況を見ると、共働き世帯は 46.2%であり、男女ともに 4割半ばとなっている。  
 また、平成 16 年度より女性の共働き世帯で 41.0%から 46.9%と増加している。男性では「夫だけ働いている」で 43.7%から 48.6%と増加している。

(5) 子どもの有無 . . . . . 有配偶者のほぼ8割が子どもあり

【平成 21 年度（結婚の状況別）】



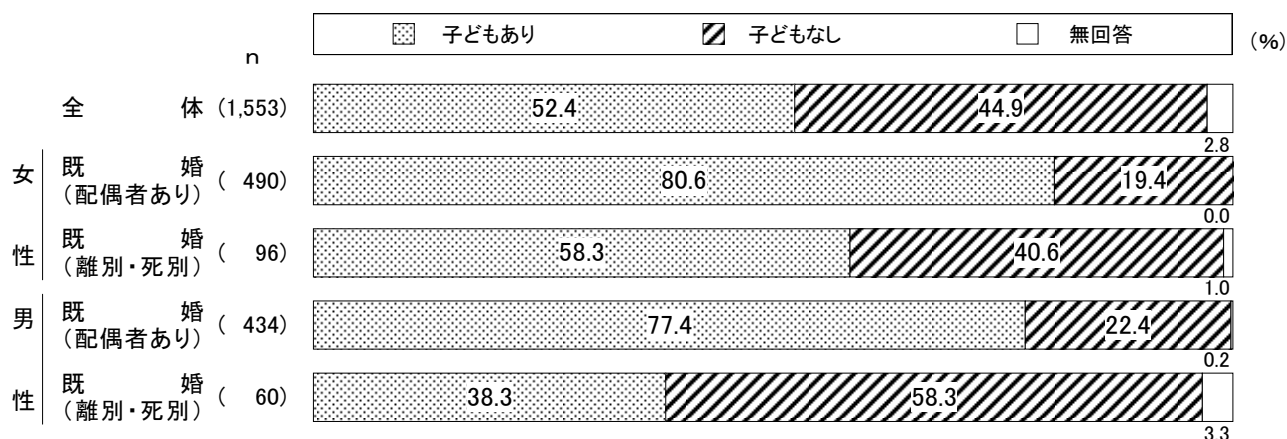
【平成 16 年度（結婚の状況別）】



子どもありは 52.4%と過半数に達している。既婚・未婚の別で見ると、既婚者のうち配偶者ありでほぼ8割、離別・死別においても5割が子どもありとなっている。

また、平成 16 年度より子どもありで 58.4%から 52.4%と減少している。

【子どもの有無（性・結婚の状況別）】

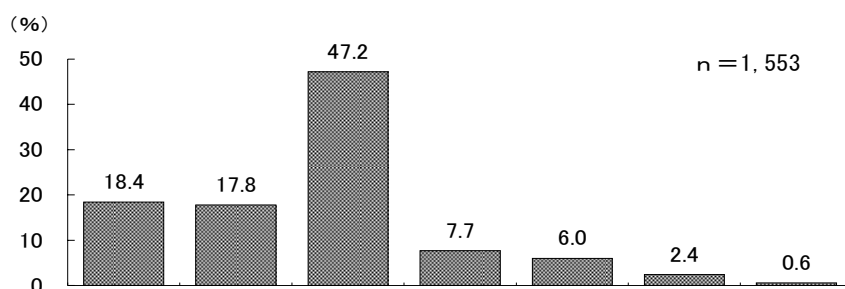


男女別にみると、既婚（配偶者あり）では性別による違いは少ないが、既婚（離別・死別）では、女性の6割近くが子どもありなのに対して、男性では4割近くにとどまり大きな違いが生じている。

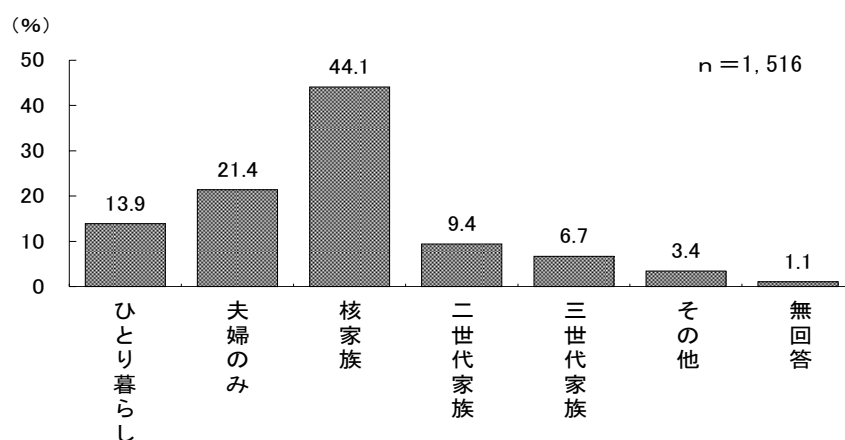


(6) 世帯構成 . . . . . 核家族が5割近くを占める

【平成 21 年度全体】



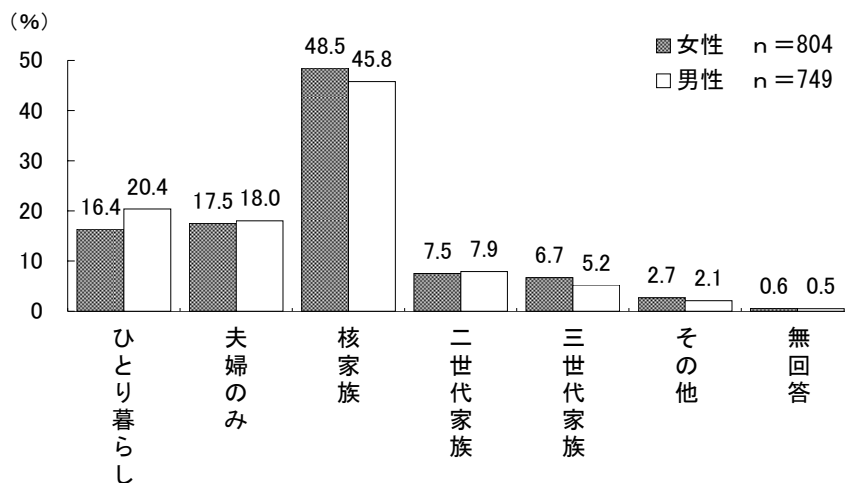
【平成 16 年度全体】



回答者の世帯構成は、「核家族」が47.2%と最も多く、「ひとり暮らし」18.4%、「夫婦のみ」17.8%など小家族形態が大半を占めている。

また、平成16年度よりひとり暮らしで13.9%から18.4%と増加している。

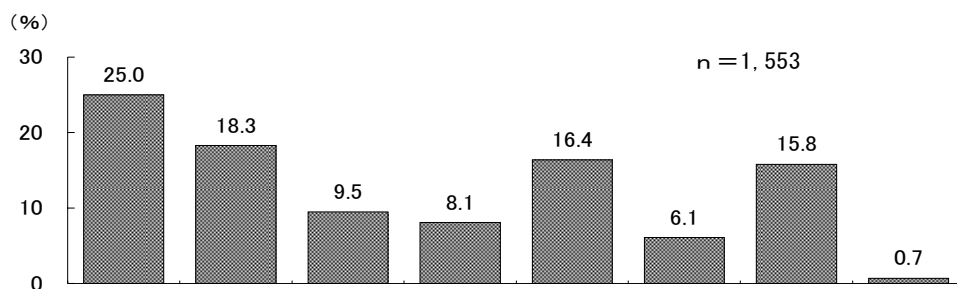
【世帯構成（性別）】



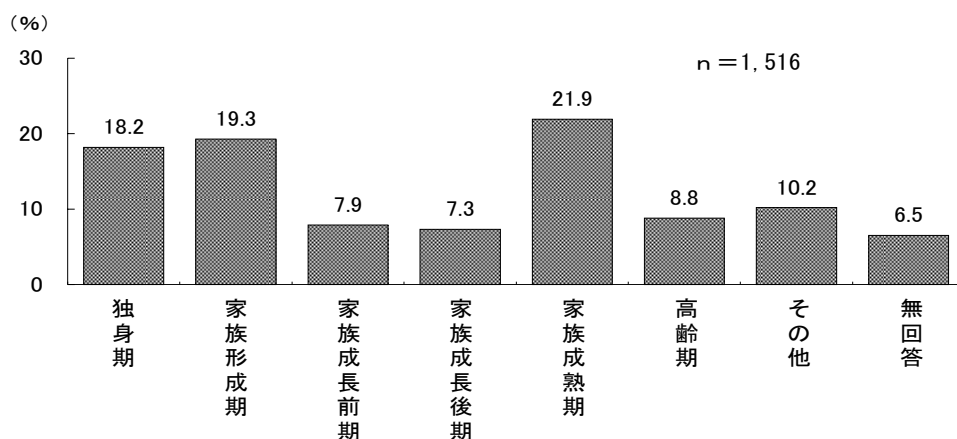
性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向となっている。

(7) ライフステージ . . . . . 独身期、家族形成期と家族成熟期が多い

【平成 21 年度全体】



【平成 16 年度全体】



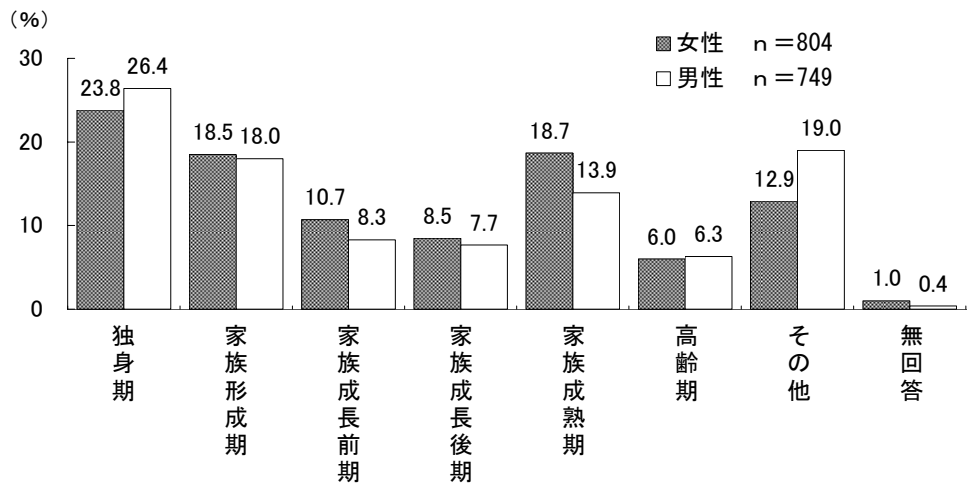
【ライフステージ区分】

独身期	20～39歳で単身者
家族形成期	20～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	20～64歳で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	20～64歳で一番下の子どもが中学生・高校生
家族成熟期	20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
高齢期	65歳以上
その他	40～64歳で単身者 または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない

末子の年齢別に回答者のライフステージを区分したところ、「独身期」、「家族形成期」の若い世代と子育てが一段落した「家族成熟期」が多くなっている。

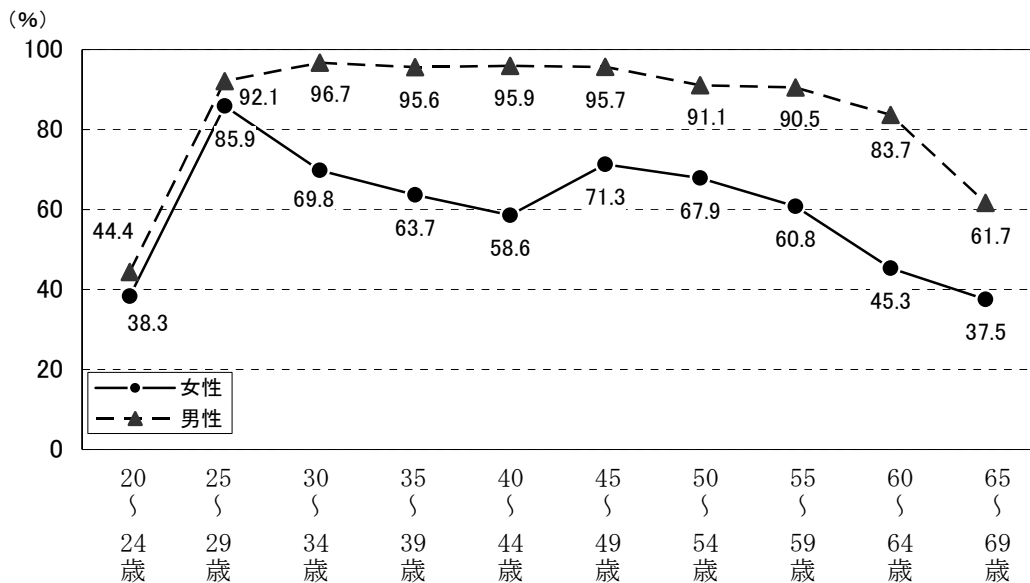
また、平成16年度より「独身期」で18.2%から25.0%と増加し、「家族成熟期」で21.9%から16.4%と減少している。

### 【ライフステージ（性別）】



性別にみると、家族成熟期は男性で18.7%、女性で13.9%と差が生じている。

### (8) 就労状況 . . . . . 女性の就労率は62.5%



女性の就労率（何らかの仕事についている割合）は全体で62.5%と6割を超えている。  
 女性の就労率を年齢階級別にみると、20代後半の85.9%が最も高く、40代前半の58.6%まで減少した後、40代後半では再就労により71.3%と増加している。これは2つのピークをもつ「M字型」に当てはまっている。

【就労状況（就労率の推移）】

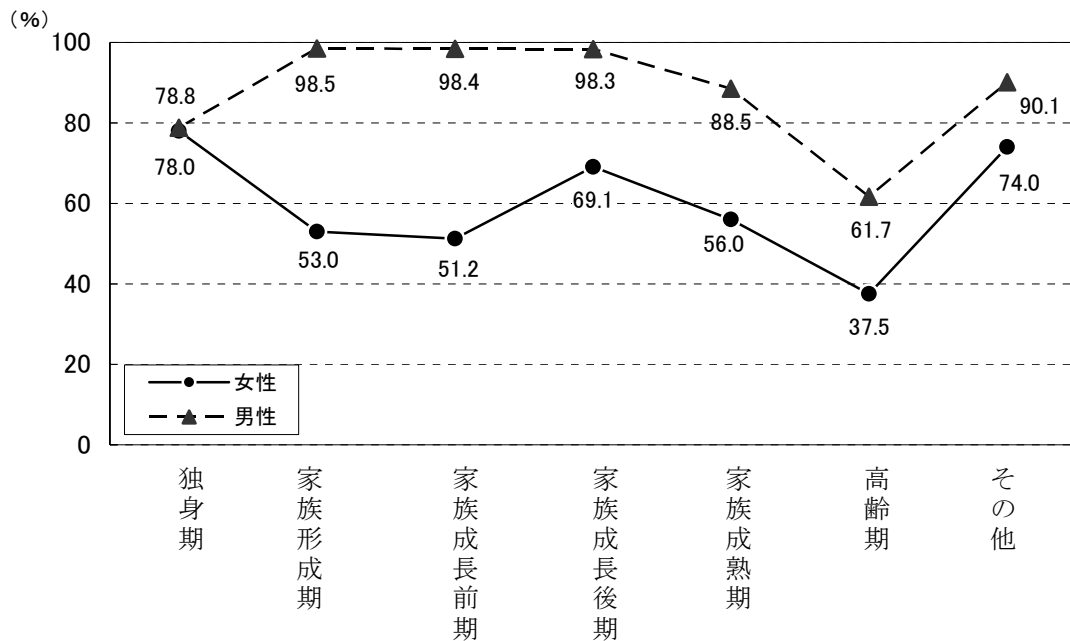
(%)

		全体	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳
女 性	平成21年度	62.5	38	86	70	64	59	71	68	61	45	38
	平成16年度	58.8	49	81	67	68	65	62	59	55	43	31
	平成12年度	54.8	60	76	55	59	61	59	67	54	42	17
	平成7年度	52.8	67	78	53	55	70	70	58	50	42	22
	平成2年度	55.6	60	71	56	66	58	65	62	41	34	25
男 性	平成21年度	87.9	44	92	97	96	96	96	91	91	84	62
	平成16年度	87.2	40	90	94	98	97	99	95	95	80	54
	平成12年度	86.6	49	91	93	96	94	99	96	94	60	71
	平成7年度	83.1	47	97	96	95	100	98	99	97	93	50
	平成2年度	86.5	43	96	99	100	97	100	100	95	81	73

※平成7年度は65歳以上にて調査

就労率の推移をみると、女性では就労率は平成16年度58.8%から62.5%と増加し、また45歳以降の年代では就労率は上昇傾向となっている。

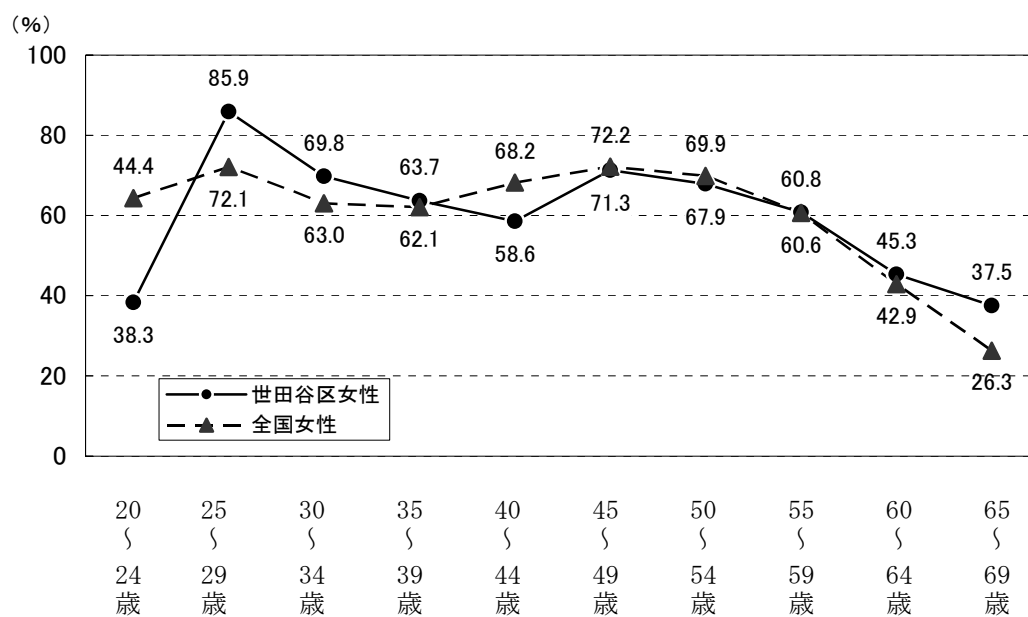
【就労状況（ライフステージ別）】



ライフステージ別にみると、女性では「独身期」が78.0%と最も高く、次いで「家族成長後期」が69.1%となっている。一方、男性では「家族形成期」、「家族成長前期」、「家族成長後期」が9割以上を占めている。

【参考 全国比較では】

【就労率（女性・年齢階級別）】



総務省の実施している「労働力調査（平成21年平均値）」と比較すると、今回の調査結果は20代後半から30代における就労率の高さが際立っている。その一方、40代前半での就労率の低さが目立つ。

## Ⅱ 調査結果のまとめ

## 第1章 家庭生活と家族観

### 1-1 家事の実施状況

家庭における家事の役割分担の詳細をたずねた。

《食事のしたく》《買い物》《洗濯》《部屋の掃除》など、日常的な“家事”に関して「いつもしている」のは圧倒的に女性が男性を上回っている。

男性で比較的良好にしているものは《ゴミ出し》で、「いつもしている」が29.9%、「わりとよくやる」が19.8%となっている。

→ p 55 図 1-1-1

結婚状況別に男性の割合に注目すると、《既婚》に比べて《未婚で、ひとり暮らし》は家事全般に関して「いつもしている」の割合が高い。

→ p 57 表 1-1-1

共働き状況別にみても、「いつもしている」と答えているのは女性であり、共働きであっても家事は女性が分担しているのが現状である。

→ p 58 表 1-1-2

### 1-2 労働や家事・育児・介護にかかる時間

#### (1) 収入の得られる労働

就労状況別にみると、男女共に《常勤の勤め人》では「8時間以上」が圧倒的に多く、女性では78.0%、男性では94.3%を占めている。女性の《パート・派遣》では「4～5時間くらい」(31.9%)と「6～7時間くらい」(28.1%)に二分している。

→ p 63 表 1-2-1

#### (2) 家庭内の家事・育児・介護など

##### 【平日】

女性では「2～3時間くらい」が28.6%、「4～5時間くらい」が28.2%、また「8時間以上」も19.4%となり、2時間以上が8割以上を占めている。一方、男性では「ほとんどしない」が44.9%と多数を占め、2時間未満が8割以上を占める結果となっている。

→ p 62 図 1-2-4

職業別にみた場合、女性の《家事専業》の状況をみると、「8時間以上」(31.6%)と「4～5時間くらい」(31.1%)の2つが多い。女性就業者は女性《家事専業》よりは少ないものの、いずれの就労形態においてもおおむね「2～3時間くらい」は家庭内の仕事をこなしている。一方、男性の状況をみると、《常勤の勤め人》では「ほとんどしない」が50.9%、《自営・自由業》では40.2%と、家事等を担っているのは女性であるという現状が改めて示されている。

→ p 65 表 1-2-2

## 【休日】

女性では「4～5時間くらい」（28.6%）が最も多く、平日と同様の傾向となっている。一方、男性では「ほとんどしない」が平日の44.9%から18.4%へと大幅に減少し、「1時間くらい」が24.7%となっている。依然として2時間未満が6割を占めるものの、2時間以上も3割を占めており、平日とは異なる生活時間となっている。 → p 62 図 1-2-5

女性の職業別にみると、《家事専業》では「2～3時間くらい」から「8時間以上」まで、広く分布しつつも、平日より従事する時間が少なくなっている。これに対して、就労女性では逆に増加傾向が見られる。一方男性就労者では「ほとんどしない」が平日に比べて大幅に減少している。 → p 66 表 1-2-3

### 1-3 家族観・結婚観と男女の役割分担意識

【結婚・出産】、【子育て】、【家族・家庭とのかかわり】、【男女役割分担意識】について具体的に17の考え方をあげ、それぞれについての賛否をたずねた。各設問に対して「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたものを《肯定派》、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせたものを《否定派》として整理すると以下ようになる。

	回答内容
肯定派	「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」
否定派	「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」

## 【結婚・出産】

「結婚する、しないは個人の自由である」（肯定派93.2%）を筆頭に、「『結婚しても、子どもを持たない』というのもひとつの生き方だ」（同78.4%）、「未婚の女性が子どもを生み育てるのもひとつの生き方だ」（同73.0%）に関しては7割以上が《肯定派》となり、《否定派》を大きく上回っている。

また、近年提唱されてきた「リプロダクティブ・ライツ」に関わる「話し合いを経た上で、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である」においても《肯定派》が56.6%と半数を超え《否定派》を上回っている。 → p 68 図 1-3-1

## 「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」

1994年のカイロ国際人口・開発会議で提唱された、特に女性の「性と生殖に関する健康と権利」の確立に関わる包括的な考え方。

その中心的課題は、いつ何人子どもを産むか・産まないかを選ぶ権利、安全で満足のある性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどである。さらに、これに関して、思春期や更年期における健康上の問題等、生涯を通じた性と生殖に関する健康と権利に関する課題が含まれる。



## 【子育て】

「女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい」（肯定派 95.2%）、「男の子も、家事ができるように育てるのがよい」（同 94.3%）、「男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つ方がよい」（同 88.5%）などにおいては圧倒的に《肯定派》が多く、女の子・男の子といった区別は必要とされていない。しかしながら、「女（男）の子は女（男）らしく育てるのがよい」という「女（男）らしさ」については《肯定派》が 64.8%と過半数を占めている。この項目については特に男性からの賛成意見が多く、女性の《肯定派》57.4%に対して男性では 72.5%と約 15 ポイントもの開きが生じている。

「子育てには地域社会の支援も必要である」（肯定派 95.5%）、「父親はもっと子育てに関わるほうがよい」（同 94.2%）のいずれも《肯定派》が圧倒的多数を占めている。

→ p 68 図 1-3-1

## 【家族・家庭とのかかわり】

「子どもや経済的不安があければ、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は《肯定派》が 69.0%と《否定派》（20.2%）を大きく上回っている。これに対し、「子どもや経済的な問題にかかわらず、結婚がうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は《肯定派》が 54.6%と半数を超えるものの《否定派》も 44.4%を占め、「不安がなければ」に比べると意見が対立している。また、女性の方が問題の所在にかかわらず離婚を容認する割合が高い。

「家族のために自分が犠牲になるのは耐えられない」では《肯定派》33.8%に対して《否定派》は 65.8%となっているが、これも性別による違いが生じている。「自分の仕事のために、女性が単身赴任するというのもひとつの生き方だ」では《肯定派》59.9%に対して《否定派》は 39.5%となっている。

→ p 68 図 1-3-1

## 【男女役割分担意識】

「家事は女性の仕事だから、共働きでも女性がする方がよい」は《否定派》が 79.9%と《肯定派》を大きく上回っている。「『男は仕事、女は家庭』という考え方には共感する」も《否定派》が 67.7%と過半数を占めており、従来のな固定的男女役割分担に対しては否定的な見解が多数を占めている。しかしながら、性別での違いに着目した場合、女性の《否定派》は男性の《否定派》よりも多く、意識のギャップも現れている。

また、「家庭や職場において、男性は女性以上に責任を負っている」については《肯定派》が 64.8%となり《否定派》の 34.7%を大きく上回る結果となった。

→ p 68 図 1-3-1

## 1-4 少子化の原因

少子化の原因としては、「経済的負担が大きいから」が 53.6%で特に多くなっている。以下、「保育施設、育児休業の制度などが十分整っていないから」（41.0%）、「子育てよりも自分たちの生活を楽しまたいと考える人が増えたから」（33.5%）、「女性の結婚年齢が高くなったから」（31.8%）、「将来の社会状況を考えると、明るい未来とはいえないから」（30.7%）、「出産・子育てが女性の自立の障害になっているから」（21.9%）と続いている。

性別でもみてもあげられている項目に大きな違いはないが、「経済的負担が大きいから」は年代を問わず多くなっている。

→ p 82 図 1-4-1

## 1-5 望ましい大人と子どもの交流の機会・場

身近な地域における望ましい世代間交流の機会・場としては、「大人と子どもが一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会」が52.9%と最も多く、以下「大人と子どもが一緒になって自主的な活動ができる機会」（31.0%）、「様々な活動を通じて子どものしつけをしてくれる場」（30.7%）、「子どもや親の話し相手になったり、気軽な相談のできる場」（30.6%）、「大人と子どもが、思いきり体を動かすことができる場」（29.9%）、「子どもが仕事場を見学したり、模擬体験できる機会」（29.4%）が3割前後で続いている。

性別でみると、「大人と子どもが一緒に遊んだり、スポーツをしたりできる機会」は男性で6割近く、「子どもや親の話し相手になったり、気軽な相談のできる場」や「子どもが仕事場を見学したり、模擬体験できる機会」の場への要望では女性がより多くなっている。

→ p 86 図 1-5-1

## 第2章 労働・職場

### 2-1 就労状況

#### (1) 本人の職業

女性の就労率は62.5%であり6割以上が何らかの職業についているが、男性の87.7%とは大きな開きがあり、25.7%が「家事専業」である。就労形態は男女とも「常勤・一般」が最も多いものの、これに続くのは、女性では「パート・臨時」（19.2%）であり、男性では「常勤・部課長以上」（22.3%）、「自営・経営」（10.8%）である。

→ p 89 図 2-1-1

女性の就労状況の変化は、独身期の「常勤・一般」から家族形成期の「家事専業」へ、さらに家族成長前期からは「パート・臨時」が増加してくるというように、末子の成長段階でみたライフステージと強く関連している。しかしながら、「常勤・一般」は家族を形成して以降、子どもの成長にかかわらず1割台前後と推移しており、家庭を持った女性が「常勤」として再就職することは少ない。

→ p 92 図 2-1-3

#### (2) 就労理由

現在、働いている人にその理由を聞くと、女性の場合、「生計を維持するため」（54.1%）とともに、「自分の能力、技能、資格を生かすため」（30.2%）、「自分で自由になる収入がほしいため」（25.6%）といった自己実現や経済的ゆとりに関する理由も多くなっている。これに対して、男性では「生計を維持するため」（86.5%）に集中している。

→ p 93 図 2-2-1

#### (3) 職場での女性差別

仕事をしている人に職場での性差別について聞いたところ、「特にない」は57.9%となっているものの、「昇進、昇格に男女差がある」（14.2%）、「配置場所が限られている」（12.4%）、「賃金に男女差がある」（11.4%）、「能力を正當に評価しない」（9.9%）など、依然として多くの差別が存在していることが指摘されている。

→ p 96 図 2-3-1

## 2-2 家事専業と無職の状況

### (1) 就労経験

現在働いていない人の就労経験は女性では82.9%、男性では66.3%である。  
なお、現在家事専業の女性でも、79.0%が就労経験を有している。 → p 98 図 2-4-1

### (2) 働いていない理由

男性では「高齢だから」(18.1%)、「求職活動中だから」(18.1%)の2項目が多くなっている。女性では「働かなくても経済的に困らない」(32.4%)が最も多いが、「家事・育児に専念したい」(24.7%)、「家事・育児と両立できない」(20.9%)、「希望や条件にあう仕事が見つからない」(15.0%)など多様な理由があげられている。 → p 99 図 2-5-1

### (3) 就労意向

何らかの形で働きたい意向を示している人は60.9%と6割に達する。就労形態では、男性では「常勤」の意向が顕著に多いが、女性では20代の「常勤」志向、30代・40代では「パート」志向と年代による違いがある。 → p 102 図 2-6-1、p 104 図 2-6-2

## 2-3 望ましい女性の働き方

望ましいと思う女性の働き方としては、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をもつ」という《中断再就職型》が51.3%と特に多くなっている。

「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をもつ」という《就労継続型》は21.6%、「子どもができるまでは仕事もち、その後はもたない」という《出産退職型》は11.5%、「結婚するまでは仕事をもつが、結婚後はもたない」という《結婚退職型》は3.8%であった。

この《中断再就職型》への支持は特に女性から多く示されており、男性では《出産退職型》などの退職／家庭志向が女性よりやや多くなっている。さらに、男女とも若年層の就労志向、高年層においては家庭志向といった年代による違いや、性別役割分担意識と関連した違いもみられる。 → p 105 図 2-7-1

## 2-4 女性が長く働きつづけることの障害

女性の長期就労継続の阻害要因としては、「子どもを預けるところ(保育園)がない」が64.5%で最も多く、以下「育児」(61.0%)、「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分」(56.5%)、「高齢者や病人の介護・看護」(38.3%)、「家事」(27.4%)の順で続いている。

性別でみても男女ともおおむね共通しているが、「高齢者や病人の介護・看護」や「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分」に関しては、女性と男性の温度差も大きくなっている。 → p 110 図 2-8-1

### 3. 仕事と子育て

#### 3-1 育児休業制度

##### (1) 育児休業制度の利用意向

自身や配偶者の出産に際しての育児休業制度利用については、女性では「利用する」が62.3%と6割に達している。一方男性では、「利用する」が42.5%と差が生じている。

→ p 113 図 3-1-1

また、常勤の勤め人の意見をみると、女性では「利用する」は71.1%と7割を超えているのに対して、男性では41.7%にとどまり、男女の見解の違いが大きくなっている。

→ p 114 図 3-1-3

##### (2) 育児休業制度を利用しない理由

育児休業を利用しない理由は、「職場に迷惑がかかる」が38.5%で最も多く、「職場の環境が育児休業を取得できる雰囲気ではない」が30.4%で続いている。この他では、「収入が減少する」は19.3%、「必要性を感じない」は15.2%となっており、職場環境を中心とした理由が特に多くなっている。

→ p 115 図 3-2-1

##### (3) 育児休業制度の利用促進策

育児休業制度の利用しやすくするものとしては、「事業主や上司の理解」や「休業中の経済的支援」は男性で、「短時間勤務制度等休業後、職場復帰しやすい体制の整備」や「休業後、スムーズに保育所等に入所できる体制の整備」は女性でより多くなっており、男性では職場の理解など育児休業を取りやすい環境づくりや経済面での支援の必要性が、女性では休業後の復帰しやすい環境整備の必要性が強く求められている。

→ p 117 図 3-3-1

#### 3-2 職場に望む子育てと仕事の両立支援

「妊娠中や育児期間中の勤務軽減(フレックスタイム制度や短時間勤務制度など)」が55.4%と最も多く、これに「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」(48.0%)、「育児休業制度や再雇用制度の普及促進及び円滑に利用できる環境づくり」(35.7%)が続いている。

女性では「妊娠中や育児期間中の勤務軽減(フレックスタイム制度や短時間勤務制度など)」(58.7%)と「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」(56.1%)が5割半ばを超え、男性以上に強い要望となっている。

→ p 121 図 3-4-1

#### 3-3 区に望む子育てと仕事の両立支援

区の施策に対しては、「保育園の多様な運営(長時間保育、病後児保育等)」が83.8%と圧倒的に多く、「地域の中で子育てをする仕組み」(41.8%)と「企業等に対する啓発」(37.2%)が4割前後で続いている。特に「保育園の多様な運営(長時間保育、病後児保育等)」は女性家族形成期では92.6%と9割に達している。

→ p 124 図 3-5-1

## 第4章 介護

### 4-1 介護してほしい相手

女性では「公的・民間サービスを利用する」が45.5%と最も多く、「配偶者」は19.8%にとどまる。これに対して、男性では「配偶者」への期待が42.6%と最も多く「公的・民間サービスを利用する」（29.8%）を大きく上回っている。

→ p 127 図 4-1-1

### 4-2 男性の介護参加を進めるために

「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」が65.4%と最も多く、「労働時間を短くしたり、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける」が49.6%、「男性が気軽に参加できるような介護講座を開催する」が24.5%、「男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う」が21.8%となっている。

→ p 130 図 4-2-1

### 4-3 介護の担い手

「男性も女性と同じように取り組むべきである」（40.6%）と「女性に過剰な負担がかからないように男性も出来るだけ介護にかかわるほうがよい」（35.2%）の割合が高くなっている。

→ p 133 図 4-3-1

## 第5章 ドメスティック・バイオレンス（DV）

### 5-1 DV防止法の認知

このDV防止法の認知について聞いたところ、「法律名も内容も知っている」は35.5%と3割半ばとなっている。また、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は53.0%であり、少なくとも聞いたことのあるレベルでの認知は9割近くとなっている。一方、「知らない」は10.8%となっているが、年代による違いもあり、男女とも若年層では「知らない」が比較的多くなっている。

→ p 135 図 5-1-1

### 5-2 ドメスティック・バイオレンスについての考え

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方としては、「100%加害者に責任があり、許せないものである」という意見が49.1%で、「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」（36.3%）を上回っている。

また、性別の他にも、年代や性別役割分担意識によっても意見が分かれている。

→ p 138 図 5-2-1

### 5-3 ドメスティック・バイオレンスだと思うもの

身体的暴力に関しては、「命の危険を感じるような暴力行為」(95.0%)、「身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為」(93.8%)と9割以上がドメスティック・バイオレンスと感じている。

性的暴力に関しては、「性行為を強要する」は74.2%と高く、「避妊に協力しない」は59.7%となっている。

精神的暴力に関しては、「人前でバカにする、『誰のお陰で暮らせるんだ』と言う」(65.5%)、「わずかな生活費しか渡さない、仕事に就くことを禁止する」(61.9%)、「友人や実家との付き合いを禁止する」(60.6%)、「大切にしているものを壊す」(60.1%)では6割以上を占めている。

身体的暴力・性的暴力・精神的暴力の順に認識の割合が下がっており、さまざまな形の暴力が均等にドメスティック・バイオレンスとして認識されているというわけではない。

→ p 141 図 5-3-1

### 5-4 充実すべきドメスティック・バイオレンス対策

「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」が56.3%で最も多く、「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」も51.3%と5割を超えている。この他、「加害者に対する厳正な対処」(34.0%)、「緊急時の相談体制の充実」(28.2%)、「カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助の充実」(23.4%)の順で続いている。

性別でも比較的共通した意見が示される中で、女性からはいざという時の自立に向けた具体的な支援の必要性がうかがえる結果となっている。

→ p 144 図 5-4-1

## 第6章 社会参加・参画

### 6-1 グループ・団体への参加状況

男女別の参加状況をみると、女性39.9%、男性29.5%と、女性の方が参加率は高い。

→ p 146 図 6-1-1

女性の参加率をみると、40代以降で4割以上となっている。男性では、20代の参加率は3割あるものの、30代では2割台と最も低くなっている。40代以降は回復するものの、女性の同年代に比べると低い割合にとどまっている。

→ p 147 図 6-1-2

### 6-2 活動内容

参加している人の活動内容をみると、「スポーツ活動」(45.6%)と「趣味的活動」(43.5%)に集中している。

→ p 149 図 6-2-1

「趣味的活動」は女性の50代・60代で多くなっている。また、「PTA・子ども会活動」は女性の40代で5割台、30代でも2割台と多くなっている。「スポーツ活動」は男性では若年層で特に割合が高く、20代で69.0%と多くなっている。

→ p 151 図 6-2-3

### 6-3 参加していない理由

現在自主的な活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、「時間に余裕がないから」が56.3%と圧倒的に多く、「関心がないから」(23.2%)、「情報がないから」(21.3%)と続いている。

→ p 152 図 6-3-1

男女ともに共働きでは「時間に余裕がないから」という理由が特に多く、女性で7割、男性で6割近くとなっており、現実問題として就労・家庭・社会参加を両立させることの難しさを物語っている。

→ p 155 図 6-3-4

## 第7章 「男女共同参画センター“らぷらす”」について

### 7-1 “らぷらす”の認知

“らぷらす”については、女性では「知っているが、利用したことはない」が17.0%と2割近くを占め、男性(7.7%)よりは認知状況がよくなっている。一方、男性では「知らない」が91.2%と9割に達している。

→ p 156 図 7-1-1

### 7-2 “らぷらす”を中心とした区の事業展開について

“らぷらす”を中心とした区の事業展開として、今後重点的に行うべきものとしては、男性向けの家事・育児セミナーなどの「男性の家事への参画、新しい生き方などを啓発する事業」(37.1%)、就職セミナーなどの「女性の就業支援を目的とした事業」(34.2%)、ストーカー・DV防止などの「最新の社会問題を扱う事業」(30.2%)、「家庭、仕事、人間関係などで生じた問題を中心とした、相談事業の実施」(26.0%)、「地域での社会活動をはじめるきっかけづくりを目的とした事業」(24.7%)などが多くあげられている。逆に少ないのは、「女性の地位向上等を啓発する事業」(5.2%)であり、より具体的な問題に対応した事業の充実を求める声が強くなっている。

→ p 158 図 7-2-1

また、女性で多い「女性の就業支援を目的とした事業」への要望は、特に20代から40代で強く望まれている。

→ p 160 図 7-2-3

## 第8章 男女平等観

### 8-1 男女平等観

社会の各分野における男女平等の状況は以下のとおりである。「平等になっている」と「ほぼ平等になっている」の《平等評価》の高い順に整理すると、【教育の場】が71.7%と最も高く、【家庭生活】が60.5%と続いている。一方、【社会参加の場】が47.7%、【職場】が46.1%にとどまっている。【社会全体として、現在の日本】においては、《平等評価》の34.9%に対して、《不平等評価》が53.6%と圧倒的に多く、個別項目以上に不平等観が多くなっている。

いずれの項目においても《平等評価》は男性でより多く、男女の意識の違いがみうけられる。中でも、【社会参加の場】と【職場】については女性からの評価がとりわけ厳しく、男女で見解の相違が大きい。

→ p 161 図 8-1-1

## 8-2 行政への女性意見の反映

### (1) 行政への女性意見の反映度

女性では「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた《反映されていない》が37.5%となり、「十分に反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた《反映されている》の40.0%と二分されている。一方男性では逆に、《反映されている》が57.2%と過半数を超え、《反映されていない》の22.6%を大きく上回っており、男女の意見の違いが顕著である。

→ p 168 図 8-2-1

また、女性では50代で5割近くが《反映されている》と考えている。

→ p 169 図 8-2-2

### (2) 女性の意見が反映されていない理由

行政に対する女性意見の反映に関して《反映されていない》と答えた人にその理由をたずねたところ、「社会のしくみが女性に不利」(49.5%)、「男性の意識、理解が足りない」(42.9%)、「行政機関の管理・監督者に女性が少ない」(40.8%)が4割台と多くなっている。また、「行政機関の管理・監督者に女性が少ない」は女性では4割と多くなっている。

→ p 170 図 8-3-1

## 第9章 男女共同参画社会の実現に向けて

### 9-1 男女共同参画のもたらす影響

男女共同参画の進展による変化については、「仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方ができる男性が増える」が51.6%で最も多く、「男性の家庭や社会に対する理解が深まり、視野が広がる」が40.8%で続いている。一方、「伝統的な家庭観が希薄になる」(16.7%)などの否定的な見解は少数にとどまっている。

→ p 172 図 9-1-1

### 9-2 行政への要望

男女共同参画社会に向けて行政に要望することとしては、「育児・保育施設の充実」が58.4%で最も多く、「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実」(33.5%)、「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」(25.2%)、「あらゆる分野における女性の積極的な登用」(24.5%)と続いている。

性別で見ると、「育児・保育施設の充実」(女性64.2%、男性52.2%)と「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実」(女性37.8%、男性28.8%)は、女性でより強い要望が示されている。

→ p 175 図 9-2-1



## 第10章 ワーク・ライフ・バランス

### 10-1 ワーク・ライフ・バランスの希望

【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】が35.0%で最も多く、次いで【「家庭生活」を優先したい】(18.8%)、【「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」をともに優先したい】(17.0%)、【「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい】(9.6%)と続いている。 → p 178 図 10-1-1

### 10-2 ワーク・ライフ・バランスの現実

【「仕事」を優先している】が34.6%で最も多く、次いで【「家庭生活」を優先している】が23.7%となっている。また、【「仕事」と「家庭生活」をともに優先している】は希望では35.0%と最も多かったが、現実では19.7%と大きく差が生じている。 → p 181 図 10-2-1

### 10-3 ワーク・ライフ・バランスに重要なこと

「保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実」が56.7%で最も多く、次いで「職場の両立支援制度の充実」(32.1%)、「長時間勤務の見直し」(27.0%)と続いている。 → p 184 図 10-3-1